



その 262

## クローズアップ21

### 世界一、敷居が低いゴルフ場へ 那須小川ゴルフクラブ

充実したコンペなど来場者が喜ぶ施策で地域活性化目指す

那須小川ゴルフクラブ（18H、栃木県那須郡）は、創業オーナーの神場多巳氏によって1969年10月6日に開場したJLPGA認定および日本ジュニアゴルフ協会（JJGA）公認のトーナメントコース。コースは水の魔術師と言われた小林光昭氏や川又茂三氏によって設計された。グリーンはベント1グリーンで品種はタイプ（Tyea）。5年に1回はインターシードしているという。

ゴルフ場のメンバー数は1764人で、昨年度の来場者数は3万2991人。その内メンバーとビジターの比率は約3対7。年代別では、10代2%、20代7%、30代7%、40代13%、50代21%、60代19%、70代22%、80代以上9%。

来場者比率は、女性来場者比率が10%、県内は45%、県外が55%（主に東京



那須小川G.C.の篠崎暢宏代表取締役社長兼理事（右）と篠崎倫宏代表取締役副社長

都、埼玉県、茨城県など）である。同G.C.では、毎月第3土曜日に会員権争奪杯を開催。今年9月には、日本初のドラコン世界大会が開かれた。那須小川ゴルフクラブの篠崎暢宏代表取締役社長兼理事と篠崎倫宏代表取締役副社長に話を聞いたので紹介したい。

### ゴルファーの挑戦意欲を高める競技志向のゴルフ場

篠崎理事は、1997年に代表取締役社長兼理事に就任し、就任当初はゴルフ場のコース改造や営業関係、従業員の教育などに専念されたという。2011年に民事再生を出す前から競技志向に変えた。倫宏副社長と相談をしながら、ゴルファーの挑戦意欲を高めることを狙い、徹底的な競技志向でコース改造を行った。競技については、関東ゴルフ連盟（KGA）主催の倶楽部対抗栃木県予選11大会（決勝は3回）を始め、県知事盃、県アマ各種競技、JJGAジュニア各種ゴルフ大会、全日本医科大学ゴルフ連盟主催各種競技、日本女子プロゴルフ協会主催のセカンドクォーターファイナリング競技などを開催。また、関東大学ゴ

練習コース「プラス3」



ドラコン世界大会のために土砂の移動や芝の張替えなど大改修を行った

ルフ連盟各校を始めとするゴルフ部合宿や一般大学の教養学科の体育授業として夏冬ゴルフ合宿も定期開催している。

現在は、コロナ禍の影響で開催競技が減っているが、ジュニアからシニアまで公式競技は何でも手を挙げてきたという。

### 練習コース「プラス3」で日本初のドラコン世界大会開催

同クラブが2011年に民事再生した直後に東日本大震災が起こった。当時は36ホール営業だったが震災の影響でチャレンジコースの道路が寸断してしまっただけで、コースの復旧が難しいと判断し、知人の紹介を通じてメガソーラー

事業者にチャレ

ンジコースを売却。18ホールを売却する話だったが、将来女子プロ競技を開催することを見越して改造するため、1番と9番の2Hを残した。2Hの真ん中のスペースにショートホールを入れて、後に3Hの回り放題を練習コースとして残したのが「プラス3」である。プラス3は、主にジュニアレッスンや女子プロの一人合宿などに利用されている。

理事長はドラコン世界大会開催の経緯について、「ある日、日本ドラコン協会の松谷会長が視察に来られて、当クラブでドラコン大会をやってほしいということ、昨年1月にプラス3を改造して10月にプロドラコンツアー全日本選手権を開催して大正解でした。ドラコン全日本選手権が終わった時にドラコン世界大会を那須小川で開催したいとの話があり、非常に責任を感じました。コース改造は全て自社で行い、グリッドを世界基準の50ヤードに拡張して真っ平な状態にするため、3万5000m<sup>2</sup>の土砂を移動して従業員総出で芝の張替えを繰り返して行いました。今年7月にコ

ース改造を完成させて、9月にドラコン女子世界大会「2022年PLDAレディースチャンピオンシップ」を無事に開催できました。わざわざ日本に来ていただいたので、南平台温泉ホテルにて選手に浴衣を着てもらいました。また、扇子や折り鶴などスタッフが手作りで準備しました。ホテルでのレセプションは通訳が来てくれましたが、それ以外は身振り手振りで対応し、来年も来たいと喜んでいました。主催者側からも感謝の言葉をいただきました」と話している。ドラコン大会はプラス3の1番ロングホールで行われ、大会を通してスタッフやボランティアの協力的な働きぶりや予選落ちの選手が敗退後に運営側を手伝う姿勢に感心したという。

栃木県では、スポーツ大会で地域活性化するという考えがあり、国際大会にも注力している。そのため、栃木県知事や地元の町長などからドラコン世界大会の後援を受けている。

プラス3は大会後に、現在改修など調整をしているため10月22日に営業再開を予定している。既に予約も入っており、ゴルフレッス

日本初開催となるドラコン女子世界大会。約500名の観客が集まった



ンや中高生への体育授業（授業合宿）の目的で利用が増えたそう。今後はゴルフ授業合宿を増やしていきたいとしている。

プラス3専用の年次会員も在籍していて現在は24名。料金は、入会が4000円で、3Hの1ラウンド利用はメンバー900円、ビジター1200円（土日祝日は+1000円・税込）となっている。

### 会員権争奪や女子プロ応援などオープンコンペに注力

同CCでは、会員権争奪杯など様々なコンペに力を入れている。

「会員権争奪杯は5年前から毎月第3土曜日にやっています。会員権を賞品として入会していただくということから始めました。既に会員の方が優勝された場合は譲渡が可能です。大概は景品だけ買って友人に差し上げるケースが多いと思います。会員さんの仲間や



会員権争奪杯は優勝と当日賞が会員権を獲得できる

身内で入会したい方は登録される方もいらつしやいます。ビジターさんはプレー代の1万2500円で会員になれるので、優勝すると喜ばれます。会員権を賞品としてオープンコンペで使うのはあまり見ないので、会員も含めて参加者が増えていきます。新しい会員は若い方が多く、一番若い方は中学生です。現在、アクティブ会員が945人いますが、その内ジュニア会員は160人。中学生になると正会員にもなれますし、退会される方もいます。クラブはメンバー制ですけど、ゴルフ場でできるのであれば会員権の価値を下げずに賞品化したり、新しい会員をお金で入れるのではなく、有効に使って那須小川に喜んで来ていただいている方を増やしていきたいと思っています」（篠崎理事長）と説明している。

「女子プロテスト応援コンペ」は、



プロを目指す女子ゴルファーと一緒に回れる応援コンペ

BS・CSで放映のゴルフ番組「ゴルフサバイバル」に出ている女子プロを目指す女子ゴルファーを応援することを目的として2~3年前に開始した。

今年も1度開催して好評とのこと。プロを目指すゴルファーにプロテストの経費の一部を支援する形で、今年プロテストを受ける同クラブのアシスタントプロも他のプロ候補と一緒に回れることを非常に喜んでいったという。

「今後は不定期ではありますが、半年に1回はやっていこうと考えています。コロナでイベントがなかったのですが、目先を変えてプロの卵を呼んで今後も継続していきたいらと思えます」（倫宏副社長）。

女子プロテスト応援コンペの参加費はメンバー・ビジターともに1万7000円で、先着順で32人が参加可能だ。

### F1グリーンや回り放題等様々なイベントを実施

同クラブは、イベントにも力を入れている。

3年前から難しさをコンセプトに始めた「激辛ピンポジデー」は、より難しさを強調してゴルフアーに挑戦してもらうという狙いだ。

「高速」の意味からF1グリーンと称して激辛ピンを含めて、週1回木曜日に設定をしている。最初は来場者からお叱りを受けたが、「次は絶対に制覇してやる」、「他のコースでプレーした時に易しく感じるから良い」ということで評価が段々と変わってきたという。現在は、毎週火曜日に開催していたレディースデーが木曜日に移動となったため、激辛ピンポジは可能な限りの設定という。

「F1グリーン自体は5年以上前から行っており、メンバー・ビジター問わず激辛ピンを目標て来られる方は多いです。グリーンの上は、時期や天候にもよりますが、9・5フィート以上は確実に出ています。もつと速くすることもできますが、11フィートが限度



F1グリーンとシビアなピンポジがゴルフアーの向上心を刺激

かなと思います。F1グリーンは、コース管理課に任せています。うちのグリーンキーパーは元々ゴルフの研修生をやってからキーパーになっているので、芝だけでなくゴルフに関して色々と精通しています。いかに難しいところにカットを切るかは信頼して任せています」（倫宏副社長）

コース管理課はキーパーを含めて10人。その内、70歳以上が半数を占めている。中にはコース管理の部品が揃えば殆どの機械を直せるメンテナンス専門のベテランスタッフも在籍しているという。

毎月月末に設定している回り放題デーは、元々1・5ラウンドセトルが好評のため、平日もそれに近いプランで出来たらと3年程前から始めたという。料金は昼食・諸税込で5400円（9月実施）とかなりお得で、開催日は半数の利用者が回り放題を利用している。

その他にも、フライデープレミアムコンベンなど様々なイベントを実施している。

### ・レストラン運営や4階ロτζジホテルなどの宿泊状況

進入路入口近くにある「世界一、敷居が低いゴルフ場」と書かれた看板は7〜8年前に建てられた。

理事長の代で、「世界一、敷居が低いゴルフ場」という表現に変えたが、常に新しいゴルフを改革し、地域活性化を含めて来場者を喜ばせたいという。

世界一敷居が低いゴルフ場として楽しめるゴルフ場をめざす



レストラ  
ンは以前か  
ら一般開放  
していたが、  
ゴルフ以外  
には中々集  
まらなかつ



クラブハウスの洋室ツインルーム

たとのこと。コロナ前は、50種類のバイキングという形で提供して好評だった。コロナが収まった後は、他のゴルフ場と違った面白いことを考えているようだ。

同クラブでは、日本ジュニアゴルフ協会主催の決勝大会競技が年3回あり、選手・父兄含めて150〜200人が来場するため、今年からバイキングを、貸し切りの場合のみ一部解禁するとしている。

クラブ4階ロτζジや南平台温泉ホテルは、まだコロナ前程ではないが、徐々に利用客が戻ってきている。

ロτζジやホテルでは、ゴルフパッケージなどで勝負していて、特に8月は学生合宿での利用が多い。競技開催が戻ってくれば、ロτζジの活躍が増えるという。

### クラブ内の屋外プールを県内競技スイマーに初の無料開放

同クラブ関係者でつくる一般財団法人「那須小川スポーツ振興基金」が、昨年7〜8月に屋外50メートルプールを県内の競技スイマー向けに初めて無料開放した。

プールは、地元出身の同クラブ創業オーナーによって県内の水泳

選手育成を目的に開設。栃木県から要請を受け、県水泳連盟主催の県年齢別水泳選手権大会を開催していた。ある時にスイミングクラブから強化合宿の依頼をヒントにして、それから毎年近隣の大手水泳クラブや高校水泳部の夏季合宿場として定着し、競泳の池江璃花子選手も高校1年まで鍛錬に訪れた。

プール利用者は2000人程いたが、コロナの影響で一昨年は300人、昨年は700人と減少した。今年は千人ほどが戻ってきて来年の予約もしてくれたという。コロナが拡大しなければ、以前の人数に戻ってくるだろう。

同振興基金は、ほぼ創業オーナーの私財を提供して設立した。主な活動は、プロゴルファーを指す人達に資金を提供することやプールを造ってオリンピック選手を目指す小中学生の育成を目的としている。基金設立から地域の方々を喜ばせようという発想が現在でも受け継がれている。また、同クラブはSN

### 那須小川GCのInstagram



S (Facebook、Instagram、TikTokなど)を頻繁に更新している。専属の担当者が投稿を続けているので、SNSを利用しているメンバーも多いようだ。

ゴルフ場を見学して、ユニークな表示板など遊び部分を取り入れた来場者を楽しませる工夫が目に残った。同GCの遊び心のある取り組みに今後も期待したい。



クラブ敷地内にある屋外50mプール



ゴルフ場の至る所に遊び心を尽くした楽しめる仕掛けが施されている